

平成28年3月23日(水)

老球の細道222

無用の用

会津バスケットボール協会 室井 富仁

ある人から「君の議論ときたら、無用きわまるな」と批評されて、中国の思想家・荘子の答えはこうであったという。

「いや、無用なりゃこそ、用の足しにもなるんだよ。地面にしたってそうだ。人間が立つためには、足をおく余地さえあればいいわけだが、さて足をそばだてて、その廻りをみんな奈落の底まで掘り下げたとして見たまえ。それでも足下の地面だけで安心して立っていられようか」。

「それは無理だ」。

「してみれば、無用の土地があるから安心して立っていられるのだ。無用が用の足しになることがわかっただろう」。

毎年3月の上旬には福島市のあづま総合体育館でU-18エンデバー大会(地区選抜対抗試合)が開催される。この時に選抜チームの選手強化だけではなく、県内の公認審判員の研修も一緒に行われる。審判員の研修会は、ルールの理解や審判技術の向上などが従来の研修内容だったが、4年前にはちょっと変わった企画が計画された。審判員の人達に「バスケットボールの歴史」を勉強してもらおうということである。光栄にもその講師に私が依頼された。

「バスケットボールの歴史」の講習で依頼された内容は、審判には無用と思われるバスケットボールの出生の秘密を話してほしいということであった。依頼者は喜多方高校女子コーチで県審判委員会のA級審判、植田先生である。余裕のある審判員になるために、バスケットボールをもっと深く、多角的に見直したいということであった。

福島県バスケットボール界のトップの選手達、コーチ、審判員が一同に会するU-18エンデバーを開催できるのもバスケットボールというスポーツあってのこと。また、夢をもって元気にイキイキと毎日を過ごすことができるのもバスケットボールのおかげである。こんなにお世話になっている「バスケットボール」であるが、出生の秘密4W1Hはほとんどの人が知らない。選手はプレーすることはできる、コーチは技術論、戦術は知っている、審判はルールは知っているのだが・・・。

バスケットボールが「いつ(WHEN)」「どこで(WHERE)」「誰が(WHO)」「なぜ(WHY)」「どのように(HOW)」して誕生したのかを知ることによって、バスケットボールへの愛着はさらに深まる。そして「I LOVE BASKETBALL!」。

ラーメンを食べる時、いくら麺とスープが決め手になるといっても丼にスープと麺だけでは、さすがの喜多方ラーメンも形無しである。美的な器に、ネギやチャーシュー、シナチクなどが入ってこそ美味しく食べられるというものである。まさに無用の用。

人生最高の喜びは道を極めることだと言われる。どんな道でもその道を極めるには、技術を高めるだけではなく、人間性の向上が伴わなければならないと言われる。その人間性の向上を目指す上で重要なことは「無用の用」。たくさんのムダを経験することが懐の深さ、器の大きさを作り、遊び心、余裕を持って事にあたることができる。

あ、しまった!また無用の通信を書いてしまった。